

平成 26 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

研究領域名	細胞死を起点とする生体制御ネットワークの解明
領域代表者	田中 正人（東京薬科大学・生命科学部・教授）
研究期間	平成 26 年度～平成 30 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>近年、細胞死には複数の過程があり、それによって生じた死細胞は、個体における種々の生体応答の情報の発信源となるという新たな概念が形成されてきた。本研究領域は、細胞死の分子機構と、死細胞を起点として惹起される生体応答を網羅的に解析し、それぞれの細胞死が持つ生理的・病理的意義を解明することを目的とする。</p> <p>非アポトーシス細胞死機構の解明と、死細胞から発信される情報による生体応答の解析は、医学・生物学における重要な課題と考えられる。死細胞の多様性という点ではこれまでの一般的な細胞死を扱う研究と本質的な区別は難しいが、さらに死細胞がもたらす生理反応の解析は新規性が認められる。また、肝細胞死を計画研究代表者全員参加の共同研究プロジェクトとして取り上げている点は面白い取り組みと考えられる。</p> <p>一方で、各計画研究は、いずれも細胞死に関する並列的な研究プロジェクトであり、肝心の細胞死に端を発する現象から出発する生体反応のメカニズム解明が若干、手探りである印象は否定できない。細胞死の機構を解明することの生物学的意義を早い段階で明確にする必要があるだろう。</p> <p>研究期間、経費は妥当であり、また、組織、領域の運営、若手育成などはよく考えられている。</p>